

戦後初の町長に 原田太八が就任



人造石油の研究所



岡田 佐 市



甲 田 半



原 田 太 八

「助役の町長昇格を」次代市長の前堤として大物町長を迎えるべきだ」と各派が主張したため、意見調整が危ぶまれていた昭和十四年十月、第九回留萌町会において、議案は異議なく可決し、当面の重大案件の町長選挙の件が議案にあげられた。

選挙の方法をどうするかと議員に諮れば、赤松議員が開口一番、「時局柄と町財政を考えて、助役は町長代理としてのこり、任期を勤めてもらいたい。」

しかし、どうしても町長を選ぶというのなら、前町長がこの人ならと推賞した原田現助役を昇格させ、町政に協力一致邁進したい」と意見をのべた。

これに対して、対馬議員は「まず選挙委員を設けて考慮すべきである」と提案し、結局、多数決をもって七名の選挙委員を選び、後任町長の選任を一任することを決した。

選挙委員は、第一、第二ブランドを立て、札幌において地元協議、代議士も参画し、協議の結果、元網走支庁長を勤めた岡田佐市を推薦した。

町長選挙町会は、十一月十三日に町公会堂で開会、十七議員が出

席し選挙委員長が報告し、反対意見と賛成意見のべられ、採決に入り二議員が退場したため、結局十五議員の満場一致で、十二代町長に岡田佐市が就任した。

21年初めて婦人に投票権が

十六年二月、ついに大平洋戦争に入り、十七年六月のミッドウェイの海戦を転機として後退をはじめ、日本本土への空襲もはじまった。

このころの日本は昭和六年の滿州事変を契機に大陸進出を図り、世界各国、とくに中国のはげしい反対運動にあつたが、軍部はさらに進出計画を進め、日中関係は悪化、昭和十二年日華事変に発展し、戦争は長期化の様相を示しはじめた。

そして二十年には、ついに日本の国力は底をつき敗色濃厚となり、八月十五日、ついに終戦を迎えた。この苦しい戦時下で留萌町政を担当した岡田町長は、十八年に再任となったが、敗戦によるポツダム宣言の公職追放にかり、二十一年十一月追放となった。

二十一年四月、助役であった原田浅次が退職し、同年四月に、留萌町経済課長であった橋本作市が助役に就任したが、橋本助役も公職追放により二十一年四月退職し、収入役甲由半が、町長臨時代理者となった。

このような状況の中で、平和憲法が發布され、二十一年三月に行なわれた選挙から婦人に参政権が与えられ、市町村長選挙は、従来議員によって選ばれた首長制度が廃止され、有権者による選挙によって選ばれることになった。

また、従来の議員は町会議員であったが、これからは町議会議員となった。

戦後の町長選挙は、昭和二十二年四月に行なわれ、原田太八が戦後初の町長に当選、助役には金沢豊三が収入役には須藤兼一が就任した。



図書館案内

- 新刊案内
 - 実務・専門書・マルタン和仏大辞典(白水社)・英語語法大辞典(研究社)・衣食住の米会話(研究社)・法律用語の基礎知識(有斐閣)・英米法概説(有斐閣)
 - 日本資本主義発達史(婦人論(ペリベル)・才能教育の心理学(国土社)・魚類検索図鑑(北陸館)・現代漢法入門(毎日新聞社)・暮らしのヒント(ハイローズ)・海外で仕事をする技術(成田昭夫)
- 随筆・小説・趣味
 - 麻雀のうら方・音の世界(オーイ才学入門)・解放された世界(石川達三)・純愛(瀬戸内晴美)
 - 追いつめる(生島治郎)・人間太宰治(山岸外史)・善人は若死をする(大西赤人)・情(高田好胤)
 - 酔いどれ船(北杜夫)・ひたむきに愛を求めて(三浦綾子)・戦争と人間(五味川純平)・聖少女(三好誠)・太陽の讃歌(カミコ)
 - ・人間滅亡的人生案内(深沢七郎)・太陽が怒りを照らせ(佐江象一)・生きるか死ぬか(三浦綾子)
 - ・原生花園(渡辺喜恵子)
- 休館日について
 - 八月一日より休館日が次のように変わります。
- 開館日及び時間
 - 1月曜から金曜まで、午前十時から午後五時まで(ただし、図書貸出し返納のみ六時まで)
 - 2土曜日、午前十時から正午まで(ただし、図書貸出し返納は午後二時まで)
 - 休館日 日曜日、祝祭日、月末年末年始です。

編集・発行 留萌市企画広報室 / 印刷留萌印刷株式会社